

この素晴らしいアニメ  
能力に祝福を!! ?[投稿  
停止中]

立花オルガ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

普通の高校生、天矢 始は不慮の事故で死んでしまう。▼しかし、目を開けたそこはどこか見覚えのある場所だった。▼「え？ここっでもしかしてこのすばの世界だよな？」▼転生特典として様々なアニメの主人公の力を受け取った始は、あの素晴らしき世界でポンコツパーティーのメンバーと共に、冒険に出かける！

# 目次

第1章 ああ、駄女神様

第1話 いざ、転生！／2019

1

第2話 k a z u m a との邂逅

8



# 第1章 ああ、駄女神様

## 第1話 いぎ、転生！／2019

「天矢 始さん、ようこそ死後の世界へ。あなたはつい先程、不幸にも亡くなりました。短い人生でしたが、あなたの生は終わってしまったのです」

俺の前に天使がいる…え？俺死んだの？人生ENDですか？

ていうかあまりのシヨックで死んだと思われる前後の記憶がぶっ飛んでる。

「どうやら混乱しているようです。死んだ時のシヨックで記憶が曖昧になることもあります。思い出すには、頭に浮かんだ単語やイメージを口に出すと良いですよ」

そうか、なら…俺の名前は天矢 始。とある高校でそこそこの学校生活を送ってきた。あまり良い思い出ないな。ていうか本当に死んだんだ…よし！今更後悔しても遅い！切り替えていこう。

「…記憶が戻ってきたようですね。色々聞きたいことがあれば聞いてください。」

「俺はどうやって死んだんですか？」

そう、まだ、死ぬ直前の記憶が全く思い出せないのだ。

「あなたの死因は、居眠り運転をしていた車との衝突事故です。本来ならあなたは事前に察知し避けていたのですが、その時のあなたは歩きスマホをしていたので…。文明の発達も考えものですね…」

「はは…なんかすみません。」

俺はこの景色に見覚えがある。天使と対話できる空間、2つだけある椅子、これは俺が生前好きだったこの素晴らしい世界に祝福を!!のカズマが転生するときの景色である。

そこで俺は天使にこんな質問を試してみた。

「あれ、すっかり転生の導きをするのは女神様だと思っていたんですけどね。女神様はどこ行つたんですか?」

「ええ、実は女神様は今色々あつていらつしやらないのです。」

お、次の質問で確認が持てるな。

「その女神様の名前はなんて言うんですか?」

「その女神様の名前は水の女神様“アクア”です」



正直どれも凄いのだが、俺には使いこなせそうにない。小説にもあったけど、ミツルギみたいに関器を奪われたらヤバイしなあ。

ん?これだ!

「このアニメの能力のセットでお願いします!」

「了解しました。では、この紙に自分が欲しい能力10個書いてください」

え!10個も!良いんですか!

そう言つてアンケート用紙みたいなのを渡された。

「...よし、できた!」

書いたのは:

炎炎ノ消防隊のシンラの発火能力

ソードアートオンラインのキリトのソードスキル

僕のヒーローアカデミアのデクのワンフォーオール

スクライドのカズマのシエルブリット

落第騎士の英雄譚の黒鉄 一輝の技



ストライク・ザ・ブラッドの暁古城の第四真祖の力（吸血鬼体質は無く、治癒能力が高いだけ、眷属の力はそのまま）

七つの大罪のメリオダスのカウンター技

魔法科高校の劣等生の司波達也の分解・再構築魔法

ハマトラのナイスの音速のミニマム

そして、Fateの衛宮士郎の投影魔術

である。

ていうか、七つの大罪もS A Oも原作の展開知らないから続き楽しみにしてたのに！

畜生！

俺がそんな事を思っている間に俺の希望した能力は完成し、俺の身体の中に埋め込まれた。これなら異世界での生活はとりあえず大丈夫だろう。

「それでは、この魔法陣の中央から出ないように気をつけて下さい」

おお、魔法陣を実際に見てみると綺麗だな。やっぱり魔法ってすごいな

「天矢 始さん。あなたをこれから、異世界へと送ります。魔王討伐のための勇者候補の一人として。魔王を倒した暁には、世界を救った偉業に見合った贈り物：たとえどんな願いでも。たった一つだけ叶えて差し上げましょう」

「おおっ！」

やっぱりその特典もあるのか！神器も第二の生もくれて、魔王を倒したらなんでも願叶えるとか神様優しすぎるよ！

それならそれまでに終わった俺の好きなアニメの一气見させてとかでも良いのかな？

「さあ、勇者よ！願わくば、数多の勇者候補達の中から、あなたが魔王を打ち倒す事を祈っています。…さあ、旅立ちなさい！」

ここで原作だったらアクア泣き叫んでいるのだろうな（笑）

俺、カズマ達がいる世界に行けるんだあ…。出来るなら一緒にパーティに入って、一緒に異世界生活を楽しみたいな。

…流石にワガママだよな。とりあえず、会ったら借金を作らないよう助言しようかな。

…こんな素晴らしい機会をくれた天使、いや天使様にお礼を言わないと



## 第2話 k a z u m aとの邂逅

俺は目を開けると、目の前を見ると、石造りの街中を、馬車が音を立てながら進んでいく光景が見えた。

「おおっ！ 本当に異世界だ！ やばい、興奮が収まらない！」

そう思っているとポケットの中に何かあるのに気付いた。中身は手紙だった。

「始様、能力の詳細だけ、ここに書いておきます。」

・ シェルブリット：原作と同じく君島の銃で纏う。外見は第二形態固定。シェルブリットバーストも使えるが、出力を調整しないとその場で倒れてしまう。ワンフォーオール、音速のミニマムと組み合わせるとより強力になる。

・ ソードスキル、黒鉄一輝の技、フルカウンター、リベンジカウンター

・ 初めはヴォーパルストライク、ダブルサーキュラー、一刀修羅のみ使用できる。後の技はスキルポイントで獲得可能。

・ 分解魔法：原作と同じ

・ 投影魔術：初めは千将莫邪のみ生成可能。偽・螺旋剣などはスキルポイントで生成

可能。

・音速のミニマム：ヘッドホンなしでも指パッチンをするだけで活動可能だが、1日1回しか使用できない。

・発火能力：原作と同じく、足から発火し、飛行したり炎のキックを放つことができ、1日に1時間以上使うと息切れを起こす。

・第四真祖の力：吸血鬼としての特性は自己修復力が高いだけ。眷族の力はそのまま。

・ワンフオーオール：原作と同じく、出力を調整しないと使った部位がいかれるが、第四真祖の力で早く回復する。

・使用武器：黒鉄一輝の陰鉄、キリトのダークリパルサー、エリシユデータ、夜空の剣が使用可能。

武器などはこの手紙を読んだ後で装備されます。では改めて異世界で頑張ってください。

p s. ギルド登録用のお金はこつちから支給します。」

…ふんふん、あつ！そういうことね。だいたいわかった。

まあ、要は調整が必要って事か。最初から、全部の技使えるのもおかしいし。

そう思っていると、いきなり、体が重くなった。

手紙にも書いてあった装備だ。背中にダークリパルサーとエリシユデータ、脇腹に夜空の剣、隠鉄、君島の銃が装備されていた。

「まあ、とりあえずギルドを探るか。」

数十分後、ギルドに着いた俺は中に入った。すると、店員さんが

「いらっしやいませー！お食事は空いている席へどうぞ！仕事案内は奥のカウンターへ  
！」

と愛想よく出迎えてくれた。

受付は何個もあり、1人はお馴染みのルナさんだった。

俺はルナさんのいるカウンターにいった。別に下心があった訳ではない。たまたま空いていたのだ。

「はい、今日はどうされましたか？」

「はい、冒険者登録がしたいのですが。」

「そうですか。それでは、登録手数料をお持ちですか？」

「あつ、1000エリスですよ。はい。」

「確かに受け取りました。では、冒険者の説明をさせていただきます。冒険者とは……」

冒険者などについて、説明を受けた俺は書類に諸々の必要事項を書き終えて、ステータスを測るために水晶に手をかざした。

「はい、ありがとうございます。アヤマハジメさん。ええと……。筋力、生命力、魔力、器用度、敏捷性、魔力量は平均よりも高いですね。幸運値はかなり高いですね！まあ、幸運値は冒険者にはあまり必要では無いと言われているのですがね。このステータスなら中級職で問題ないですね。」

あー、一応ま〇おの筋肉講座を見て、筋トレしといて良かった〜！ありがとうございます、ま〇おさん！

さて、あの爽やかイケメンゴリマッチョのこと考えてないで、職業選択D☆A☆  
「あれ、職業はもう表示されていますね？ええと……。『魔術武闘剣士』？」

ああ、俺の能力をイメージした職業になっているな、これは。

ふむ…スキルは…見たところ、スターバーストストリーム、カラドボルグ生成、フルカウンター、その他諸々のスキルがあるな。良かった。

「はい、了解しました。それにしてもこんな職業見たことないんですが、一応上級職のようです。」

上級職で良かった〜！上級職なら受けられる依頼に制限はないから、すぐに高難易度クエストにも出れるということだ。

「では、冒険者ギルドへようこそハジメ様。スタッフ一同、今後の活躍に期待していますよー！」

これで、冒険者ギルドへの登録は完了した。

これから、俺の異世界での冒険者生活が始まるのだ!!

とりあえず、お馴染みのジャイアントトードのクエストを受けた。

「地図によるとここら辺に…。いた！」

ギルドから支給された地図に従って歩いていると、200m程先にいる巨大なカエルを視認することができた。



早速、俺は投影魔術を使ってみる事にした。

「投影開始……！」

そう俺が言うと、あのアーチャーが持っていた、双剣『干将・莫耶』が出てきた。

「おお！本当に出て来た！よし……なんかいける気がする！」

そうこの前、終わったばかりのライダーの口癖を言いながら、ジャイアントトードに向かつて走り、二刀流スキル『ダブル・サーキュラー』を発動させた。

「……はあああ！」

ソードスキルは巨大ガエルに当たり、ジャイアントトードはその場に倒れる。

気絶しただけかもしれないので、冒険者カードを確認すると討伐モンスターの欄にジャイアントトードの名前が入っている。

どうやらしつかり倒せたようだ。

その後俺は武器を夜空の剣に変え、2匹のカエルを見つけ討伐した。

「よし目標の3匹は倒せた！じゃあ、報酬貰って帰るか『ドオオオオオン！』ん？この爆音はもしかして……！」

そう思った俺は足から炎を発生させ、音のした方に飛行した。

（俺の読み通りならあの音はめぐみんの爆裂魔法だ。だと、すると、早くしないとあのまま、ジャイアントトードに食わられてしまう！）

俺が音のした方に到着すると、すでにめぐみんはジャイアントトードに食われていた。

ハ「ああー！一足遅かったかー！」

案の定、近くでカズマが何か叫んでいた。

俺はとりあえず、めぐみんだけでも吐き出させるために、ジャイアントトードの土手っ腹にシンラみたいに炎のキックをくらわせた。

そして、吐き出されためぐみんをキャッチした後、カズマの近くに着地した。

カ「めぐみんを助けてくれてありがとう。ところで…お前誰だ？服装からして転生者か？」

ハ「ああ。俺は天矢始だ。今日から転生してきたんだ。いきなりだけど、お前のパーティに入っているかい？」

カ「ああ、俺もパーティメンバーを探していたところだ。俺の名前はカズマだ。よろしく。で、今始が助けた奴が仮採用中の…」

め「我が名はめぐみん！紅魔族随一のアークウイザードにして最強の攻撃魔法爆裂魔法を操りし者!!」

カズマが紹介しようとするのを遮って、めぐみんがお決まりの挨拶をした。

ハ「はは、よろしくな。これで全員？」

いや、もう一人、あの駄女神がいるのは知っているんだけど（笑）

カ「いや、もう一人いるんだけれど…」

カズマがちらつとジャイアントトードの方を見た。そのカエルは明らかに何かをくわえていた。

カ「おいしいおいしい！まだ、食われてるのかよおおおお！」

そう言つて、カズマは半分キレながら、アクアを食つていたジャイアントトードに向かって走つていった。

これが俺とカズマ達、ヘツポコパーティとの出会いだった。